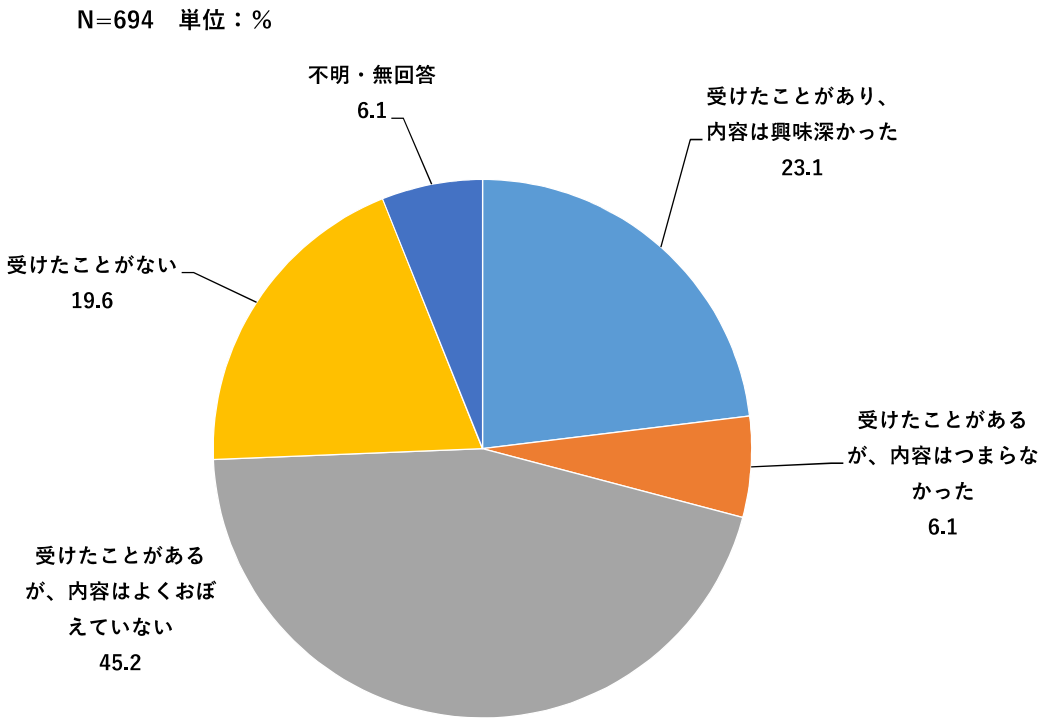
12　学校での人権教育について

問１２ あなたは、学校で差別や人権に関する教育を受けたことがありますか。
（１つだけに○）

［図 12－1　学校での人権教育について］



学校で差別や人権に関する教育（以下、「人権教育」という）を受けたことがあるかを問うと、「受けたことがあるが、内容をよく覚えていない」が 45.2%で最も多く、これに「受けたことがあり、内容は興味深かった」（23.1%）、「受けたことがない」（19.6%）が続き、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」は 6.1%である。

［表 12－1　学校での人権教育について（性・年齢別）］

（上段：人、下段：%）

		回答者数	受けたことがあり、内容は興味深かった	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	受けたことがあるが、内容はよくおぼえていない	受けたことがない	不明・無回答
総数		694	160	42	314	136	42
		100.0	23.1	6.1	45.2	19.6	6.1
性別	男性	291	57	26	117	74	17
		100.0	19.6	8.9	40.2	25.4	5.8
	女性	379	100	16	188	52	23
		100.0	26.4	4.2	49.6	13.7	6.1
年齢別	18-19歳	33	19	1	12	1	－
		100.0	57.6	3.0	36.4	3.0	－
	20歳代	59	23	1	31	4	－
		100.0	39.0	1.7	52.5	6.8	－
	30歳代	71	17	6	45	2	1
		100.0	23.9	8.5	63.4	2.8	1.4
	40歳代	97	25	9	53	8	2
		100.0	25.8	9.3	54.6	8.2	2.1
	50歳代	117	26	13	65	8	5
		100.0	22.2	11.1	55.6	6.8	4.3
	60歳代	155	40	12	65	27	11
		100.0	25.8	7.7	41.9	17.4	7.1
	70歳以上	182	24	1	55	81	21
		100.0	13.2	0.5	30.2	44.5	11.5

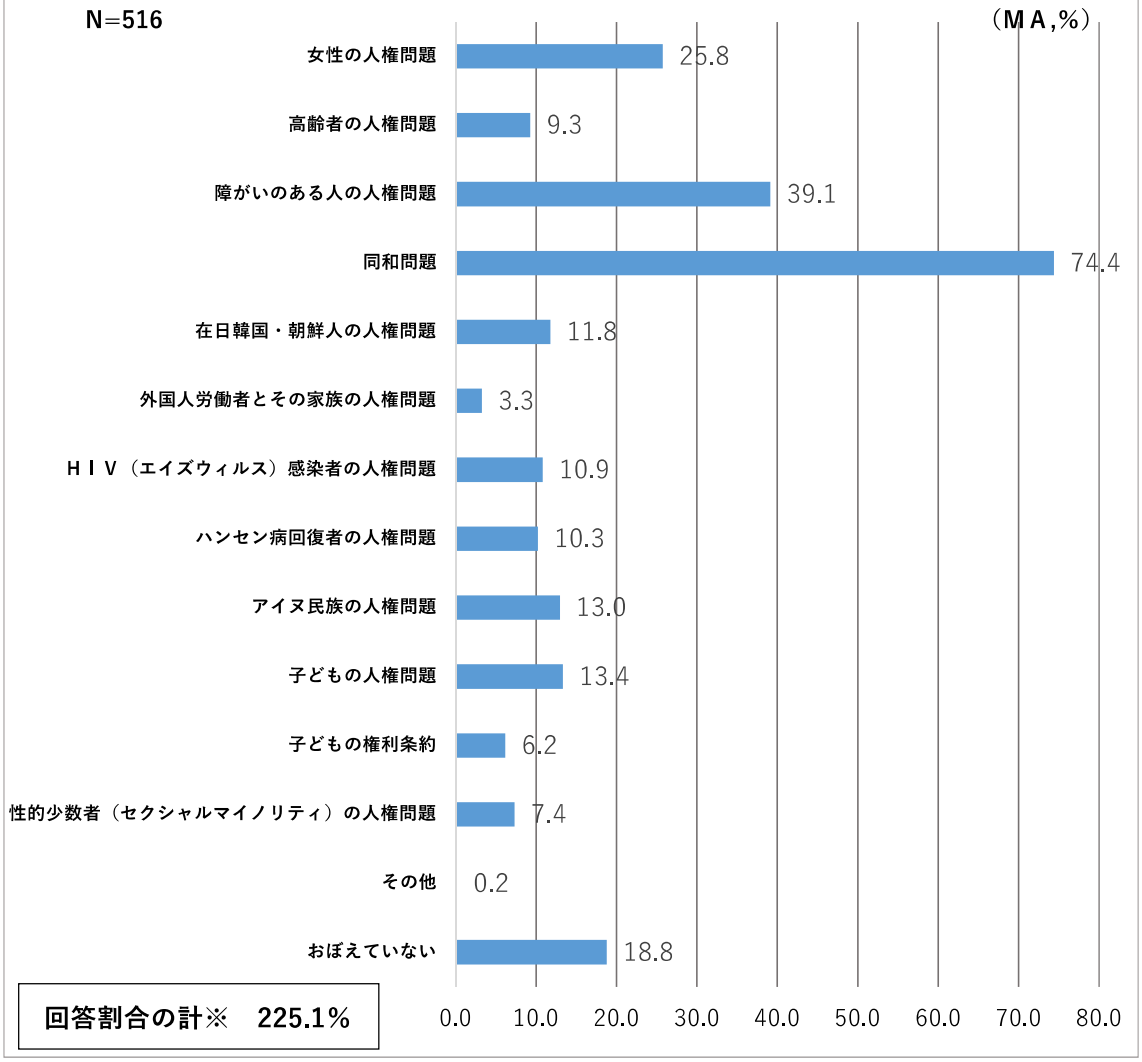
性別では、「受けたことがあり、内容は興味深かった」と「受けたことがあるが、内容をよく覚えていない」は女性のほうが多く、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」と「受けたことがない」は男性のほうが多い。とくに、「受けたことがない」の割合は、女性の 13.7%に対して、男性は 25.4%と、11.7 ポイントも高くなっている。

あとでみるように、「受けたことがない」という回答は 70 歳以上で多い。これは 1970 年代に入ってから人権教育が広く行われるようになったため、1970 年以前に高校までの教育を終えた 70 歳以上で、人権教育を受けた経験のない人が多いのである。しかし、男性のほうに 70 歳以上が多いというような年齢の偏りがあるわけではないので、男性で人権教育を受けたことがないという回答が多かったのは、実際は学校で人権や差別について習ったのだが、それ自体を覚えていないという人が多いものと考えられる。

年齢別では、「受けたことがあり、内容は興味深かった」は 18-19 歳で多く、「受けたことがあるが、内容をよく覚えていない」は 30 歳代で多い。また、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」は 50 歳代で多くなっている。そして、「受けたことがない」は 60 歳未満の各年齢層では 10%未満、60 歳代では 17.4%であるが、70 歳以上では 44.5%と、非常に多くなっている。

問12－１　問12で「１　受けたことがあり、内容は興味深かった」と「２　受けたことがあるが、内容はつまらなかった」「３　受けたことがあるが、内容はよくおぼえていない」回答された人にお聞きします。問12－１．どのようなことを教わりましたか。（○はいくつでも）

［図 12－２　教育を受けた内容について］



※「おぼえていない」を除く回答割合の計

人権教育を受けたことがある人（「受けたことがあり、内容は興味深かった」「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」「受けたことがあるが、内容をよく覚えていない」と回答した人）にどのような内容を教わったかを問うと、「同和問題」が 74.4%と最も多く、ついで「障がいのある人の人権問題」（39.1%）、「女性の人権問題」（25.8%）が続く。

「おぼえていない」を除く各選択肢の割合の合計は 225.1%で、人権教育を受けたことがある人は、2.3 種類の人権課題を習ったと回答している。

［表 12－２　教育を受けた内容について（性・年齢別）］

（上段：人、下段：%）

		回答者数	女性の人権問題	高齢者の人権問題	障がいのある人の人権問題	同和問題	在日韓国・朝鮮人の人権問題	外国人労働者とその家族の人権問題	HIV（エイズウィルス）感染者の人権問題	ハンセン病回復者の人権問題	アイヌ民族の人権問題	子どもの人権問題	子どもの権利条約	性的少数者（セクシャルマイノリティ）の人権問題	その他	おぼえていない	回答割合の計※
総数		516	133	48	202	384	61	17	56	53	67	69	32	38	1	97	225.1
		100.0	25.8	9.3	39.1	74.4	11.8	3.3	10.9	10.3	13.0	13.4	6.2	7.4	0.2	18.8	
性別	男性	200	42	20	75	150	25	6	10	19	22	25	10	15	－	41	209.5
		100.0	21.0	10.0	37.5	75.0	12.5	3.0	5.0	9.5	11.0	12.5	5.0	7.5	－	20.5	
	女性	304	88	28	120	224	34	11	45	34	43	43	21	22	1	55	234.7
		100.0	28.9	9.2	39.5	73.7	11.2	3.6	14.8	11.2	14.1	14.1	6.9	7.2	0.3	18.1	
年齢別	18-19歳	32	14	7	24	11	1	3	5	6	7	15	6	10	－	6	340.9
		100.0	43.8	21.9	75.0	34.4	3.1	9.4	15.6	18.8	21.9	46.9	18.8	31.3	－	18.8	
	20歳代	55	23	9	31	25	9	7	11	7	19	14	6	15	－	12	320.1
		100.0	41.8	16.4	56.4	45.5	16.4	12.7	20.0	12.7	34.5	25.5	10.9	27.3	－	21.8	
	30歳代	68	27	11	38	37	9	2	17	9	18	16	5	6	－	15	286.7
		100.0	39.7	16.2	55.9	54.4	13.2	2.9	25.0	13.2	26.5	23.5	7.4	8.8	－	22.1	
	40歳代	87	25	10	43	67	11	2	10	7	10	15	12	7	－	16	251.7
		100.0	28.7	11.5	49.4	77.0	12.6	2.3	11.5	8.0	11.5	17.2	13.8	8.0	－	18.4	
	50歳代	104	19	3	33	90	13	2	10	13	11	3	1	4	－	17	194.2
		100.0	18.3	2.9	31.7	86.5	12.5	1.9	9.6	12.5	10.6	2.9	1.0	3.8	－	16.3	
	60歳代	117	24	7	32	100	14	3	7	9	6	9	3	－	1	14	183.8
		100.0	20.5	6.0	27.4	85.5	12.0	2.6	6.0	7.7	5.1	7.7	2.6	－	0.9	12.0	
	70歳以上	80	15	9	22	59	7	3	3	9	5	11	4	4	－	24	188.8
		100.0	18.8	11.3	27.5	73.8	8.8	3.8	3.8	11.3	6.3	13.8	5.0	5.0	－	30.0	

※「おぼえていない」を除く回答割合の計※

性別では、「女性の人権問題」「HIV 感染者の人権問題」「アイヌ民族の人権問題」などについては、女性の方が割合が高くなっている。

年齢別にみると、「女性の人権問題」「高齢者の人権問題」「障がいのある人の人権問題」「ハンセン病回復者の人権問題」「子どもの人権問題」「子どもの権利条約」「性的少数者の人権問題」については、年齢が若くなるほど、その回答割合は上昇しており、「在日韓国・朝鮮人の人権問題」「外国人労働者とその家族の人権問題」「アイヌ民族の人権問題」についても、20 歳代まで年齢が若くなるほど回答割合が上昇している。このように、多くの人権課題に関して、年齢が若くなるほど、それを習ったという回答割合が上昇しているのは、人権教育で取り上げられる人権課題が多様化していることのあらわれである。

そして、「おぼえていない」を除く各選択肢の割合を合計すると、60 歳代や 70 歳以上では 180%台であるが、20 歳代では 320.1%、18-19 歳では 340.9%と、年齢が若いほど割合の合計は大きくなっている。つまり、年齢が若くなるほど、習ったという人権課題の種類が増えているのであり、このことからも人権教育の内容が多様化してきていることがわかる。

こうした人権教育の内容の多様化のなかで、同和問題を習ったという人は、40 歳未満で、

年齢が若くなるほど少なくなっている。「同和問題」の回答割合は、50 歳代、60 歳代で80%台であるが、30 歳代では 54.4%、20 歳代では 45.5%、18-19 歳は 34.4%と、年齢が若くなるにしたがって、大きく低下しているのである。2002 年に同和対策事業に関する特別措置法が終了したが、それにともない、人権教育において同和問題が扱われなくなってきているのであろう。

なお、「HIV 感染者の人権問題」も 30 歳代から年齢が若くなるにつれ回答割合が減少しているが、これはエイズ問題に対する社会的関心の低下が関係していると考えられる。

［表 12－３　教育を受けた内容について（経年変化)］

（単位：%）

		回答者数（人）	女性の人権問題	高齢者の人権問題	障がいのある人の人権問題	同和問題	在日韓国・朝鮮人の人権問題	外国人労働者とその家族の人権問題	HIV（エイズウィルス）感染者の人権問題	ハンセン病回復者の人権問題	アイヌ民族の人権問題	子どもの人権問題	子どもの権利条約	性的少数者（セクシャルマイノリティ）の人権問題	その他	おぼえていない
問12-1　どのようなことを教わりましたか。（○はいくつでも）	2017年	523	36.9	15.3	55.1	81.3	18.4	3.8	20.3	10.9	19.9	18.2	9.8	6.1	1.0	9.4
	2022年	516	25.8	9.3	39.1	74.4	11.8	3.3	10.9	10.3	13.0	13.4	6.2	7.4	0.2	18.8

人権教育で受けた内容を前回調査の結果と比較すると、「同和問題」や「HIV 感染者の人権問題」だけではなく、「性的少数者の人権問題」を除く人権課題で回答割合が前回調査より低下している。「おぼえていない」を除く各選択肢の割合の合計は、2017 年が297.0%、2022 年は 225.1%と、大幅に減少している。前回調査では 3 つの人権課題に○をつけていたのに対し、今回は○をつけたのが 2 つほどになっている。

年齢別比較からは、人権教育で取り上げられる人権課題の多様化がうかがわれたが、前回調査との比較からは、その多様化の後退がみられる。

[表 12－4　人権教育を受けた経験別人権侵害に該当する事象等について
(問 12×問 2)、70 歳未満①]

		回答者数（人）	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	不明・無回答
ア　女性ということで、同じ勤務年数の男性よりも給与や昇進で低い評価を受けること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	50.0	23.9	18.7	2.2	1.5	3.7
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	46.3	26.9	14.6	7.3	4.9	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	43.0	37.8	13.9	2.8	1.2	1.2
	受けたことがない	47	31.9	46.8	12.8	4.3	2.1	2.1
イ　企業の採用や昇進、給与などで、外国人が不利益を受けること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	47.0	25.4	20.1	1.5	1.5	4.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	26.8	41.5	22.0	9.8	－	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	43.0	37.8	13.9	2.8	1.2	1.2
	受けたことがない	47	31.9	46.8	12.8	4.3	2.1	2.1
ウ　障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対すること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	41.8	29.9	20.1	3.0	0.7	4.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	31.7	39.0	26.8	－	2.4	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	33.1	36.7	25.1	2.0	1.6	1.6
	受けたことがない	47	38.3	40.4	12.8	6.4	－	2.1
エ　高齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	22.4	47.8	15.7	7.5	1.5	5.2
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	24.4	43.9	19.5	9.8	2.4	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	20.7	41.8	28.7	5.6	2.0	1.2
	受けたことがない	47	25.5	31.9	21.3	14.9	2.1	4.3
オ　結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	53.0	23.9	12.7	1.5	3.0	6.0
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	43.9	22.0	22.0	7.3	4.9	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	37.8	31.9	22.3	5.2	1.2	1.6
	受けたことがない	47	38.3	29.8	14.9	6.4	6.4	4.3
カ　ＨＩＶ（エイズウィルス）感染を理由に、労働者が採用されなかったり、解雇されたりすること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	41.8	26.9	22.4	2.2	2.2	4.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	39.0	34.1	22.0	4.9	－	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	33.5	31.9	26.7	4.4	2.4	1.2
	受けたことがない	47	25.5	31.9	27.7	4.3	6.4	4.3

[表 12－4　人権教育を受けた経験別人権侵害に該当する事象等について
(問 12×問 2)、70 歳未満②]

		回答者数（人）	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	不明・無回答
キ　犯罪被害者が名前や住所などを報道されること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	41.8	17.2	29.1	5.2	2.2	4.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	36.6	22.0	26.8	7.3	7.3	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	36.3	25.1	25.1	8.0	4.4	1.2
	受けたことがない	47	27.7	27.7	23.4	10.6	6.4	4.3
ク　非摘出子（法律上の婚姻関係にない男女の間に生まれた子）が結婚に際して不利益を受けること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	52.2	20.9	20.9	0.7	0.7	4.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	37.9	41.4	10.3	6.9	3.4	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	41.8	30.3	22.3	4.0	0.4	1.2
	受けたことがない	47	29.8	34.0	21.3	6.4	4.3	4.3
ケ　民間企業などで障がいのある人の雇用が進まないこと	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	33.6	41.0	19.4	1.5	－	4.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	34.1	43.9	17.1	2.4	2.4	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	23.1	44.6	27.9	2.4	0.8	1.2
	受けたことがない	47	14.9	42.6	27.7	4.3	4.3	6.4
コ　外国人であることを理由に、賃貸マンションへの入居が拒否されること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	35.1	33.6	26.1	0.7	－	6.0
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	29.3	24.4	26.8	17.1	2.4	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	20.7	38.6	35.1	3.6	0.8	1.2
	受けたことがない	47	21.3	34.0	27.7	10.6	2.1	4.3
サ　災害などの緊急時に、日本語に不慣れな外国人への行政の対応がおろそかになること	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	38.8	32.8	20.1	2.2	1.5	4.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	26.8	41.5	22.0	9.8	－	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	25.9	34.7	32.3	5.2	0.8	1.2
	受けたことがない	47	17.0	36.2	36.2	4.3	2.1	4.3
シ　在日外国人に地方参政権が認められていないこと	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	25.4	26.9	32.8	5.2	5.2	4.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	19.5	26.8	24.4	14.6	14.6	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	18.7	35.1	35.9	4.0	4.8	1.6
	受けたことがない	47	14.9	23.4	40.4	4.3	12.8	4.3

学校で人権教育を受けた経験別にみて、ある行為や事象、状態などが人権侵害に当たるかどうかの回答がどのように異なるのか、それを明らかにすることによって、人権教育の効果をみることにする。

ただし、クロス集計については、70 歳未満に限定して行った。人権教育に関するクロス集計を 70 歳未満に限定したのは、つぎのような理由からである。

学校で人権教育を「受けたことがない」という割合を年齢別にみると、60 歳代では 17.4%、60 歳未満の各年齢層ではいずれも 10%を下回っているのに対し、70 歳以上では 44.5%と、70 歳未満に比べて、70 歳以上は人権教育を受けたことがないという人が非常に多くなっている。そのため、70 歳以上も含めた全体について、人権教育を受けた経験別のクロス集計を行うと、「受けたことがない」という人が問 2 に関して回答した結果に 70 歳以上の回答傾向が強くあらわれることになる（「受けたことがない」に占める 70 歳以上の割合は 61.8%）。そうすると、人権教育を受けた経験別による比較が、人権教育を受けた人が圧倒的に多い 70 歳未満と人権教育を受けたことがない人が多い 70 歳以上との比較と変わらなくなってしまう。これでは人権教育の効果を判定するのがむずかしくなるので、人権教育を受けた経験別のクロス集計は、70 歳以上を除いて行ったのである。

学校で人権教育を受けた経験別に、どのような行為や事象、状態などが人権侵害に当たるのかの回答結果をみると、「受けたことがあり、内容は興味深かった」が「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」「受けたことがあるが、内容はよくおぼえていない」「受けたことがない」の 3 つに比べて、「よくあてはまる」の割合がはっきりと高くなっているのは、「ア　女性ということで、同じ勤続年数の男性よりも給与や昇進で低い評価を受けること」「イ　企業の採用や昇進、給与などで、外国人が不利益を受けること」「オ　結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること」「キ　犯罪被害者が名前や住所などを報道されること」「ク　非嫡出子が結婚に際して不利益を受けること」「コ　外国人であることを理由に、賃貸マンションへの入居が拒否されること」「サ　災害などの緊急時に、日本語に不慣れな外国人への行政の対応がおろそかになること」「シ　在日外国人に地方参政権が認められていないこと」の 8 項目である。

その他の 4 項目では、「ウ　障がいのある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対すること」については、「よくあてはまる」の割合が「受けたことがあり、内容は興味深かった」と「受けたことがない」の間であまり大きな差がなく、「エ　高齢者の就職が困難であったり、労働条件が低くなること」については、「受けたことがあり、内容は興味深かった」と他の 3 つの間で、「よくあてはまる」の割合に大きな差がみられない。そして、「カ　HIV 感染を理由に、労働者が採用されなかったり、解雇されたりすること」と「ケ　民間企業などで障がいのある人の雇用が進まないこと」では、「受けたことがあり、内容は興味深かった」と「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」との間で「よくあてはまる」の割合の差があまりみられない。

問 2 の 12 項目中 8 項目については、「受けたことがあり、内容は興味深かった」が他の 3 つよりも「よくあてはまる」の回答割合が高くなっており、人権教育を受けて、その内容に興味を持ったという人ほど、一般的に人権侵害に該当するとみなされていたり、人権侵害に該当するとの指摘がある行為などに対して人権侵害に「よくあてはまる」と回答し

ており、人権教育の効果があらわれているといえる。しかし、他の 4 項目では、こうした人権教育の効果がはっきりとした形では出ていないのである。また、「受けたことがあり、内容は興味深かった」の「よくあてはまる」の割合が他の 3 つに比べて高かった 8 項目についても、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合でみると、「受けたことがあり、内容は興味深かった」が他の 3 つよりも高くなっているのは、「オ　結婚に際して、相手が同和地区出身者かどうか、身元調査をすること」「コ　外国人であることを理由に、賃貸マンションへの入居が拒否されること」「サ　災害などの緊急時に、日本語に不慣れな外国人への行政の対応がおろそかになること」の 3 項目だけとなる。

[表１２－５　人権教育を受けた経験別同和地区出身者との結婚を家族から反対されている親戚の相談を受けた場合の対応(問 12×問 5)、70 歳未満]

（%）

	総数（人）	あきらめるように言う	慎重に考えるべきだと言う	迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚すべきだと言う	反対する家族を説得するなど、力になろうと言う	どう言えばよいのかわからない	その他	不明
受けたことがあり、内容は興味深かった	134	1.5	13.4	37.3	19.4	21.6	3.7	3.0
受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	4.9	12.2	24.4	31.7	24.4	2.4	－
受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	1.2	23.5	22.7	9.2	39.0	1.6	2.8
受けたことがない	47	2.1	25.5	27.7	10.6	27.7	4.3	2.1

人権教育を受けた経験別に同和地区出身者との結婚を家族から反対されている親戚に相談を受けた場合の対応をみると、「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚すべきだと言う」という回答は、「受けたことがあり、内容は興味深かった」で他の 3 つよりも多くなっているが、対応のうち最も積極的であるといえる「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」は、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」で多くなっており、その割合は「受けたことがあり、内容な興味深かった」のそれを 12.3 ポイント上回っている。また、「どう言えばよいのかわからない」という回答は、「受けたことがあり、内容は興味深かった」で最も少ないのではあるが、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」での回答割合と 2.8 ポイントの差しかない。

「受けたことがあり、内容は興味深かった」の回答は、「受けたことがあるが、内容はよくおぼえていない」と「受けたことがない」に比べて、親戚からの相談に対して、その結婚を支持する傾向が強いが、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」と比べると、積極的な対応である「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」は、後者の方に多くみられる。

このように、同和地区出身者との結婚に関する相談に関しては、人権教育の効果が明確な形では認められない。

[表１２－６　人権教育を受けた経験別子どもの人権についての考え方
(問 12×問 6)、70 歳未満]

		回答者数（人）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	不明・無回答
ア　いじめはいじめを受ける子どもにも問題がある	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	3.7	9.7	28.4	14.9	43.3	－
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	12.2	9.8	26.8	17.1	34.1	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	4.8	7.2	33.9	15.5	37.8	0.8
	受けたことがない	47	6.4	10.6	27.7	12.8	36.2	6.4
イ　保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	1.5	1.5	14.9	24.6	56.7	0.7
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	2.4	2.4	19.5	34.1	41.5	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	3.6	3.6	22.7	23.5	45.4	1.6
	受けたことがない	47	6.4	4.3	23.4	19.1	40.4	6.4
ウ　教師が子どもを指導するために、ときに体罰を加えることも必要だ	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	1.5	2.2	12.7	21.6	61.2	0.7
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	9.8	2.4	19.5	17.1	51.2	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	5.6	3.6	18.3	17.9	53.4	1.2
	受けたことがない	47	8.5	6.4	19.1	17.0	42.6	6.4
エ　保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	35.8	14.9	31.3	10.4	6.7	0.7
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	48.8	12.2	24.4	9.8	4.9	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	35.5	15.9	27.1	12.4	8.4	0.8
	受けたことがない	47	31.9	17.0	21.3	10.6	12.8	6.4
オ　学校の規則などを定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	54.5	18.7	17.2	3.0	6.0	0.7
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	58.5	12.2	17.1	4.9	7.3	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	45.8	24.3	16.7	8.0	3.6	1.6
	受けたことがない	47	36.2	23.4	12.8	12.8	8.5	6.4
カ　収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	3.7	3.0	10.4	22.4	59.7	0.7
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	9.8	2.4	22.0	17.1	48.8	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	4.4	3.6	17.9	23.1	50.2	0.8
	受けたことがない	47	10.6	4.3	12.8	17.0	48.9	6.4
キ　不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ	受けたことがあり、内容は興味深かった	134	3.7	3.0	10.4	22.4	59.7	0.7
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	41	9.8	2.4	22.0	17.1	48.8	－
	受けたことがあるが、内容はよく覚えていない	251	4.4	3.6	17.9	23.1	50.2	0.8
	受けたことがない	47	10.6	4.3	12.8	17.0	48.9	6.4

人権教育を受けた経験別に子どもの人権に関する設問での回答結果をみると、「ア　いじめはいじめを受ける子どもにも問題がある」「イ　保護者が子どものしつけのために体罰を加えることはしかたがない」「ウ　教師が子どもを指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」「カ　収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむをえないことだ」「キ　不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ」では、「そう思わない」の回答割合が「受けたことがあり、内容は興味深かった」で最も高くなっている。しかし、「エ　保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい」と「オ　学校の規則などを定める際に、子どもの意見表明の場がないことはよくない」については、「そう思う」の回答割合が最も高いのは、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」で、とくに「エ　保護者が子どもの様子を知るためでも、子どもの手紙や日記、メールなどを勝手に見ないほうがよい」については、「そう思う」の割合が「受けたことがあり、内容は興味深かった」のそれを 13 ポイントも上回っている。

子どもの人権に関する設問では、7 項目中 5 項目で人権教育の効果がみられる回答結果となっているといえる。

人権教育を受けた経験別クロス集計からは、人権教育を受けて、その内容に興味を持ったという人の人権意識が高いという傾向が多くの項目でみられた一方で、その効果がみられない項目も少なくなかった。なぜ人権教育の効果が出ていない項目があったのか、その理由については、今回の調査によって得られたデータだけでは明らかにできない。今回の調査結果から明らかなのは、人権教育の効果がみられた「受けたことがあり、内容は興味深かった」と回答した人たちは、人権教育を受けた人のうちの 31.0%にすぎない少数派であるということである。したがって、「受けたことがあり、内容は興味深かった」の割合を高めていくとともに、人権教育の効果がより明確に表れるためには、どのような人権教育に取り組んでいけばいいのか、人権教育の内容を検討していくことが重要であるといえる。